

今後のGKP活動の企画運営について（案）

（１） 定義・背景・課題

① GKPの目的を達成するための役割[定義]

【役割】

- ・これまで下水道界で展開されてきた広報活動を外部につなぐ
- ・産官学の垣根を超えた新たな広報活動を展開する下水道界のプラットフォーム

【目的】規約第2条

「下水道は暮らしや社会経済を支えている私たちの財産です。この財産を未来に引き継ぎ、活かしていくためには、利用者である国民一人ひとりに下水道の理解を深めてもらう必要があります」（規約より）

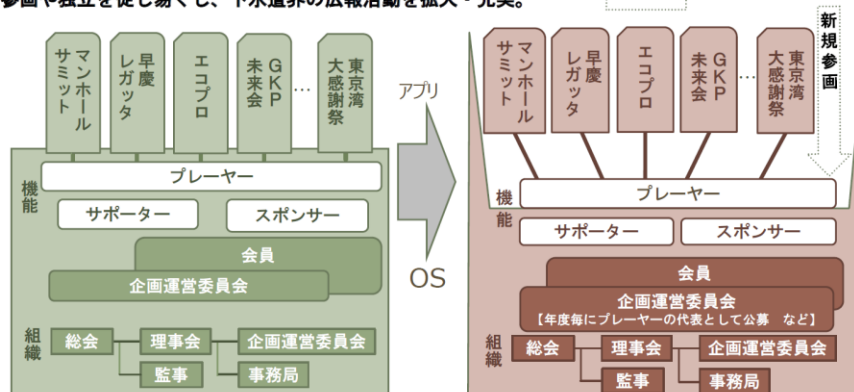
② GKPのマネジメントについての整理[背景]

- ・プレーヤーの自主性（自立化）と事務局の負担軽減を図るため

「GKPの今後の進め方について」（令和2年6月）によるOSとアプリの関係を整理

○GKP機能の見直しの考え方について

GKPの機能をOS的な性格に特化し、各活動（実行委員会形式等）がアプリのように機能することで、GKPへの新規参画や独立を促し易くし、下水道界の広報活動を拡大・充実。



③ GKP運営上の課題

- ・具体的な業務の明記や細部の規定がないため、人によって解釈が異なり連携に繋がっていない

【GKPがOSとして各活動（アプリ）に提供できる機能・効果事例】「GKPの今後の進め方について」より

企画運営委員会などの場を通じた連携拡大による活動内容や対外的訴求効果の充実

GKP会員による支援（活動予算、人的支援など）

GKPのHPでの情報発信など事務局的功能の支援

GKPの名で活動することによるマスコミ等への訴求効果、集客力の向上効果

- ・実質的な企画・運営は誰が行うのか？

- ・取組の自由度を持たせることは重要、しかし、実質の企画運営はどのように行うのか？
- ・最終責任を負うのは会長、委員長なのか？

（２） GKPの進化・成熟化に向けた調整

- ・GKPの状況判断・企画力強化
- ・「プレーヤーチーム（アプリ）」と「事務局（OS）」の関係、具体的な取組内容
- ・PJの成果・進捗度の把握・成熟度・自立度の評価・判断
- ・収入拡大

等について、議論していく必要があるのではないか・・・

●GKP 理事会・栗原アドバイザー、国土交通省下水道部・堂園調整官(R4/09/12)

○GKP のマネジメント

- ・具体的な業務の明記や細部の規定がないため、人によって解釈が異なり連携に繋がっていない
 - ・下水道協会側は「協会は事務局に徹する」、プレーヤー側は「協会は事務局だけでなくプレーヤーの支援も行う」と全く受け取りからが違っている
 - ・事務局役割の明確化については、令和2年6月24日の理事会で、骨子方針の合意を得たものの「具体的なアクション検討についてはコロナ禍で議論が進まず議論できていない。
 - ・実態として、企画運営委員会も委員長は多忙で、予算決算の承認・プロジェクトの内容・進捗報告に留まり、実際の企画を議論できておらず「GKP のマネジメント」「企画調整」が出来ていない
 - ・「プレーヤーチーム（アプリ）」と「事務局（OS）」の関係
 - ・企画運営・取組内容・GKP のマネジメント〔体制・役割〕
 - ・PJ の成果・進捗度の把握・成熟度・自立度、収入拡大 など
- 企画運営委員会のコアメンバーで議論を行う必要がある

●GKP マネジメント体制(案)

